

令和7年度活動報告書



在宅避難にむけた 防災対策

無料

- ・つっぱり棒で家具固定
- ・備蓄品のご提供
- ・アンケート調査

新たな備えサポート隊 in 札幌実行委員会

2025年12月

1. 新たな備えサポート隊in札幌実行委員会の設立

目的

「新たな備えサポート隊in札幌」は、災害の多発化や、厳冬期の厳しい避難所環境の対策として在宅避難が求められる中で、産官学民が連携してこれからの地域防災に求められる「新たな備え」の啓発と、高齢者等支援が必要な世帯への訪問を通じた「誰ひとり取り残さない災害対応」を目的に設立した。自力では備えが難しい高齢者等支援が必要な世帯を対象に、構成団体の職員や学生、市民がボランティアとして直接訪問し、安全な「在宅避難」に向けた家具転倒防止器具等の取り付けや備蓄の提供を行う。また、アセスメントを実施し速やかに必要な支援にむすびつけられるように体制をととのえることで、把握しにくい在宅避難者の災害関連死も含めて対応できる体制を作ることを目指して活動する。

新たな備えサポート隊in札幌実行委員会の設立



DCM株式会社が発起人となり、2025年7月2日第1回実行委員会をもって、新たな備えサポート隊in札幌実行委員会が設立された。

構成企業・団体

伊藤・大出法律事務所、Wolt Japan 株式会社、公立大学法人札幌市立大学、社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会、ソフトバンク株式会社、損害保険ジャパン株式会社、一般財団法人ダイバーシティ研究所、DCM 株式会社、株式会社トヨタレンタリース札幌、特定非営利活動法人 防災したっけ、株式会社北海道銀行、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、株式会社北海道新聞社、北海道放送株式会社、宮坂建設工業株式会社（50音順）

札幌市広報課と「さっぽろの『笑顔になれる街づくり』の実現に向けた連携協定」を締結

札幌市民が安心安全に暮らし笑顔が増えるように、住民への周知活動や防災啓発など、広報課と協定を結んで実施している。

加藤副市長から激励の
お言葉をいただきました



2. サポーター育成

支援希望世帯に訪問するボランティアに研修を実施しサポーターに認定

「新しい避難」が難しい高齢者等の世帯に対し「在宅避難」に向けた家具転倒防止や備蓄支援の提案を行う「新たな備えサポート隊」として、養成研修を受け「新たな備えサポーター」として認定された者を派遣した。原則として実行委員会加盟団体関係者を募集対象とし、複数名で訪ねることで、より効果的な訪問となることを図った。

動画研修の実施

ボランティア申込者は申し込み後7月～対面研修までに、新たな備えサポーター動画研修サイトにある「研修動画基礎編1」「研修動画基礎編2」「実技編」「コミュニケーション編」の4つの動画を視聴してで学習し、理解度テストをうけ理解を深めた。

対面研修の実施

9月12日(金)、13日(土)、14日(日)にDCM西岡店で開催した。座学による訪問マナーや提供する防災用品の知識のほか、転倒防止つつぱり棒の取り付け実技研修も実施した。この結果、本年度は36名の新たな備えサポーターが登録された。



DCM西岡店で研修を実施



動画研修サイト

3. 支援希望世帯 募集について

支援希望世帯について

初年度は札幌市内で最も高齢化率の高い厚別区もみじ台で活動を実施した。
札幌市の協力により介護予防センターからの告知約20世帯のほか、厚別区老人会協議会のご協力でチラシ530世帯の配布したほか、市営団地1000世帯にポスティングによる告知を行った。
100世帯を目指したが、本年度は15世帯での実施となった。
支援希望世帯15名のうち、13名が80代であった。

厚別区の地域の皆さま

SAPPORO 新たな備えサポート隊in札幌

サポート隊がご自宅に伺い、在宅避難できるように防災対策を支援します。

無料
サポート隊が家具の転倒対策を行います

ご希望の家具（目安：1～2か所）に転倒防止器具を取り付けます。

無料
アンケートにご協力ください

必要な備えを確認するため、アンケートを行います。

無料
防災用品を提供します

家具の転倒対策器具とあわせて1世帯5,000円以内の範囲で備蓄品を無償提供いたします。

※「新たな備えサポート隊」の説明を理解し自らの意思で同意することが可能な方に限ります。
※支援内容は1世帯あたり5,000円以内の部品等の提供と90分程度の作業時間になります。

対象

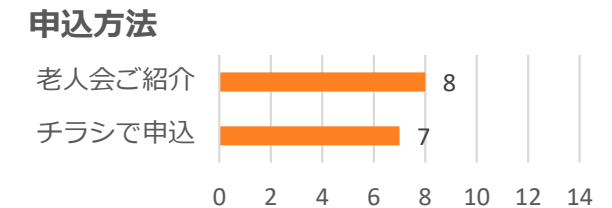
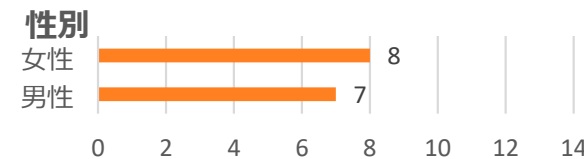
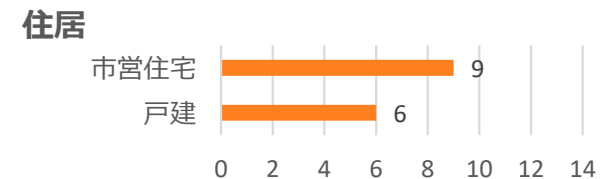
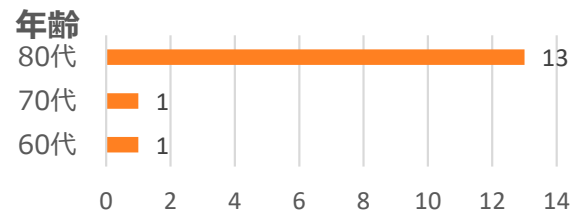
65歳以上の高齢者のみの世帯で
家族・親戚・友人・知人等による家具の固定等の災害支援が難しい世帯

申込方法

- お申込用紙に必要事項をご記入ください。
- ご記入いただいたお申込用紙を、もみじ台まちづくりセンターにお渡しください。

申込期限：9月12日（金） 必着 ※応募多数の場合は申込期限前に締め切る場合があります。

お問合せ
新たな備えサポート隊in札幌実行委員会事務局
（NPO法人防災しなっけ内）
電話：070-2488-0020（留守番電話になります） メール：sonaesup@bosaishitakke.com
主催：新たな備えサポート隊in実行委員会



お申込み世帯の状況

まちづくり センター	人　　口							割合			(%)	平均 年齢 (歳)	まちづくり センター
	総　数	老年人口						総数	年　少 人　口	生　産　年 齢　人　口	老　年 人　口		
		総　数	65～69歳	70　～　74	75　～　79	80　～　84	85歳以上						
厚　別　区	122,857	42,577	8,882	9,976	9,900	6,630	7,189	100.0	9.0	56.3	34.7	51.9	厚　別　区
厚　別　中央	28,044	7,876	1,897	1,886	1,739	1,125	1,229	100.0	7.8	64.1	28.1	49.2	厚　別　中央
厚　別　南	34,617	11,800	2,899	2,938	2,540	1,656	1,767	100.0	8.9	57.0	34.1	51.7	厚　別　南
厚　別　西	23,285	7,502	1,777	1,973	1,672	940	1,140	100.0	11.7	56.1	32.2	50.0	厚　別　西
も　み　じ　台	12,368	6,212	738	1,178	1,623	1,325	1,348	100.0	6.6	43.2	50.2	59.6	も　み　じ　台
青　　　　葉	8,596	3,932	575	801	1,020	745	791	100.0	7.4	46.8	45.7	57.2	青　　　　葉
厚　別　東	15,947	5,255	996	1,200	1,306	839	914	100.0	10.3	56.8	33.0	51.1	厚　別　東

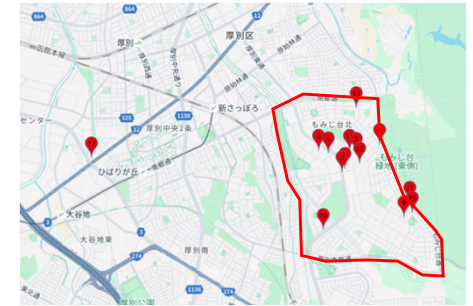
支援希望世帯募集チラシ

厚別区 まちづくりセンターごとの高齢化状況（7月1日時点）

4. サポート活動

支援世帯訪問計画の作成について

本年度は15件と訪問数が少なかったため、実行委員長と事務局長で訪問計画を作成。性別の偏りなく支援希望世帯1世帯につきサポーター3名1組を基本としてサポート隊を計画した。



サポート活動当日

10月18日19日、25日26日、11月1日2日3日の7日間で15世帯を訪問した。1世帯の訪問時間は、平均して1世帯あたり1時間（最短40分、最長2時間）であった。訪問世帯のお話相手としてもボランティアのニーズがあった。延べ32名（事務局含め28名）のサポーターが訪問活動に参加した。



出発前に支援世帯情報を確認



提供する防災用品



訪問準備



転倒対策を実施



アンケート調査



防災用品の無償提供

5. アセスメントについて

アセスメントシートの決定について

松山で実施しているアセスメントシートの内容をもとに、実行委員会会員の市立大学、札幌市社協にご助言いただき作成した。また、今回は訪問時の個人情報と紐づけずにアンケートとして実施した。（アセスメントの結果は別紙参照ください。）

日時 月 日 時 グループ No. _____

1. ご自宅の状況について、当てはまる口に✓をつけてください。

築年数

- ☐未回答
☐不明
☐10 年以内
☐11～20 年
☐21～40 年
☐44 年以上（昭和 56 年以前）

居室の階数

- ☐集合住宅（ 階）
☐戸建住宅（建物の階数： 階建て）（□2 階以上の階を日常的につかっている）

住居の安全

- ☐★居間、寝室等、長時間利用する部屋で転倒のおそれがある家具がある
☐地震で設置場所から飛び出すおそれのある大型家電製品等（例：テレビ）がある
☐★災害時に転倒して戸・ドアをふさぐおそれのある家具がある
☐★玄関や廊下で避難時に障害となる家具等がある
☐★台所で火を使う調理器具近くの家具の転倒や割れ物の飛散により、調理器に近づけなくおそれがある
☐消火器の設置がない
☐手すり、滑り止めシートがない等、階段の昇降における課題がある（在宅避難時の安全）
☐ブロック塀等、災害時に転倒のおそれがある
☐雨どい、雨水マス、側溝の破損や詰まりが水害時に大きな被害をもたらすおそれがある
☐ストーブの排気口の高さが、1m 未満である
☐冬場、ストーブのまわりに洗濯ものを干している
☐札幌市地震防災マップ、札幌市浸水ハザードマップを保管していない
☐持ち出し用の貴重品をまとめて袋等に収納していない

2. 災害時に必要な支援について、当てはまる口に✓をつけてください。

- ☐在宅医療機器を使用しているので、避難先でも電源が必要である
☐意思疎通に支援を必要とする
☐固い食べ物、飲み込みにくい食べ物は食べにくい
☐移動に介助が必要である
☐持病で定期的に通院し、調剤薬を服薬している

アレルギーがある場合は該当するものすべてに✓してください

- ☐食べ物アレルギー
☐ハウスダスト、化学物質等
☐動物アレルギー
☐その他
アレルギーの詳細についてお書きください。

ペットの飼育

- ☐犬
☐猫
☐小動物（ウサギ・ハムスター、小鳥など）
☐爬虫類、両生類
☐魚類
☐その他

その他必要な支援がありましたらお書きください。

3. つながりの有無（共助）について、当てはまる口に✓をつけてください。

- ☐近所に家族・親戚がいる
☐近所づきあいがある
☐町内会活動や老人会活動等、地域の集まりに参加している
☐ドカ雪のときに、雪かきができず困ることがある
☐生活支援に関する困りごとがある（ゴミ出し・電球交換・家具の運び出し等）
☐買い物等の移動に困りごとがある

4. 支援要請先の認知（公助）について、当てはまる口に✓をつけてください。

- ☐自治体の相談機関を知っている
☐社会福祉協議会を知っている
☐地域の包括支援センターを知っている
☐地域の民生委員を知っている
☐町内会の委員・役員を知っている
☐災害時の避難所の場所を知っている

5. 災害時、どこから情報を入手しますか？当てはまる口に✓をつけてください。

- ☐行政の HP やメールサービスや公式 LINE
☐その他サイト（ニュース、SNS 等）
☐回覧板
☐テレビ
☐ラジオ
☐新聞
☐行政の配布物
☐口コミ・知人から
☐地区役員等からの連絡
☐学校・幼稚園・保育園等からの連絡
☐介護・障害サービス事業者からの連絡
☐その他 その他詳細 _____

6. 備蓄状況（自助）について、

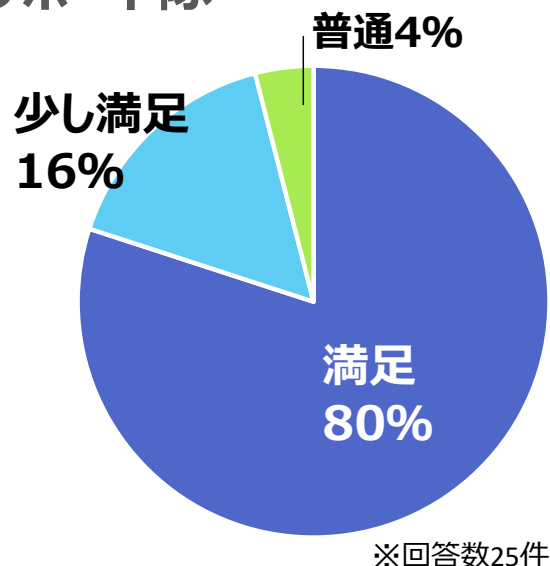
現在家にある備蓄について当てはまる口に✓をつけてください。

- ★食料 ☐0 日 ☐1 日 ☐2 日 ☐3 日 ☐4 日 ☐5 日 ☐6 日 ☐7 日以上
★飲料水 ☐0 日 ☐1 日 ☐2 日 ☐3 日 ☐4 日 ☐5 日 ☐6 日 ☐7 日以上
★携帯トイレ ☐0 日 ☐1 日 ☐2 日 ☐3 日 ☐4 日 ☐5 日 ☐6 日 ☐7 日以上
☐★懐中電灯/ランタン
☐★洗口液/歯磨きシート（口腔衛生）
☐★体拭き、ウェットティッシュなど（衛生用品）
☐カセットボンベとカセットコンロ（温かい食事を調理する道具）
☐★ラジオ（情報入手）
☐★アルミシート/使い捨てカイロ/ゆたんぼ（体温を保つもの）
☐モバイルバッテリー/充電器（携帯電話用）

7. アセスメント備考（自由記述欄）

6. サポーター、支援世帯アンケート結果

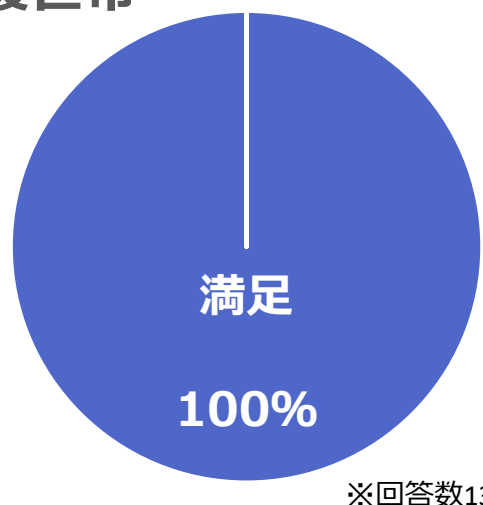
サポート隊



【サポート隊 参加者の声】

- ・ 情報にアクセスするのが難しい方への支援は必要だと感じました。
- ・ とても感謝していただいて、高齢者の方の安全面やくらしが向上する取り組みだと思います。
- ・ 自分自身の防災意識の向上にもつながった。家族や友人にも話をしてみようと思います。
- ・ 防災の準備をその場で行えているので、即効性があり効果が大きいのと感じた。
- ・ 1件しか参加できなかったのも、もっと訪問できたらよかった。

支援世帯



【支援世帯 支援後の声】

- ・ 本棚の固定に不安があった。しっかり固定していただけて安心しました。
- ・ このような活動があるのかとびっくりしました。ご苦労さまでした。
- ・ 器具の設置等しっかり説明していただき、ていねいな仕事をしてくださいました。
- ・ いろいろ教えていただいた。これから気をつけていこうと思う。
- ・ 防災用品がもらえてよかった。
- ・ 来られた方が親切でよかった。